静岡市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

静岡市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

【制作・発行】
静 岡 市

【お問合せ】
静岡市企画局企画課
静岡市葵区追手町5番1号
TEL054-221-1022

【印　　刷】
ナガハシ印刷株式会社

令和5年度　静岡市SDGs連携アワード　連携事例集

令和5年度
静岡市SDGs連携アワード
連携事例集

市長挨拶

静 岡 市 長
難 波 喬 司

本年度で３回目となる「静岡市 SDGs 連携アワード」に、多くの事業所・団体の皆様からご応募いただいたことに厚く御礼申し上げます。

静岡市は自然災害の頻発化・激甚化や人口減少の加速化など、多種多様な課題を抱えております。そして、課題の多くは複雑な要因が関係しており、何か一つやれば解決する、というものではなく、様々なステークホルダーが連携し、総合的に取り組んでいく必要があります。本事例集では、バラバラに存在していた事業所・団体の「力」や「知」が集まって繋がり、SDGs 達成に貢献する発展した取組を紹介しています。事業所・団体がそれぞれの強みを生かして「連携」した取組は、まさに今の静岡市に必要とされる総合的な取組であると言えます。本事例集を手に取った皆様が新たな繋がりや、ビジネス拡大のヒントを得られる機会となることを期待しています。

静岡市は共創による安心感のある温かい社会の実現を目指し、今後も地域社会の「力」を繋げ、SDGs を共通目標に取り組む皆様とともに伴走していきます。

INDEX

1　はじめに（静岡市長　難波喬司）…… 1

2　令和５年度　静岡市 SDGs 連携アワード　概要 …… 4

3　大賞・部門賞・SDGsローカルハブ都市特別賞　事例紹介 …… 5

【大　賞】　価格高騰の化成肥料をなんとかせねば！ならば茶細粉を活用してみよう。…… 6

【部門賞】
・ローカルビジネス部門
海の街の食文化を守れ！だしの力で地域を元気に！ …… 8
・ローカルアクション部門
富士山文化遺産 三保松原の保全活動で集めた松葉アップサイクル「みほのまつあかり」商品化 …… 10
・パートナーシップ部門
・SDGs 環境教育プログラム『雑紙を集めてトイレットペーパーにリサイクル！』～ SDF エリア対抗雑紙回収 League&Cup ～ …… 12
・ユースアクション部門
茶関連未利用資源アップサイクルプロジェクト「茶っぷさいくる～茶抄紙～」…… 14

SDGsローカルハブ都市
【特別賞】　お菓子でつなぐみんなの輪　「WANOKA　輪乃菓」商品開発 …… 16

4　連携した取組事例紹介

1 貧困をなくそう
・地域で子どもを見守るためのハンドブック製作 …… 18

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を
・健康な食環境づくりを！「スマートミール応援プロジェクト」…… 19
・牧之原市　フレイル予防講座＆体操教室 …… 20
・人と動物の共生社会の実現を目指す活動 …… 21
・竹を使った水上自転車の走行体験会 …… 22
・SUPPORT FOR SMILE エスパルス福祉基金 …… 23

4 質の高い教育をみんなに
・富士山文化遺産 三保松原の保全活動で集めた松葉アップサイクル「みほのまつあかり」商品化 …… 11
・資源を生かして地域振興プロジェクト …… 24
・女性事業者の活躍を応援！！～WOMAN WILL POWER～ …… 25
・「日本で就職」したい留学生のための支援プログラム～学民金連携事業～ …… 26
・学生がデザインシンキングで草薙の商店の魅力や課題を発見＆改善する！ …… 27
・災害に向き合うために！未来への備えを、今日から始めよう。 …… 28

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
・海の街の食文化を守れ！だしの力で地域を元気に！ …… 9
・さくら棒ソフトクリームで食品ロス削減 …… 29

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを
・SDGs環境教育プログラム『雑紙を集めてトイレットペーパーにリサイクル！』～SDFエリア対抗雑紙回収League&Cup～ …… 13
・茶関連未利用資源アップサイクルプロジェクト「茶っぷさいくる～茶抄紙～」 …… 15
・高校生考案のレシピを商品化！ …… 30
・人口減少が続くオクシズの移住者増加のための情報発信 …… 31
・地域資源と応援の連鎖を作る！学生が主体となった持続可能なイベントの実施 …… 32
・エシカル消費促進に向けたウェブサイトの構築とエシカル飼育の普及 …… 33
・耕作放棄地整備活動による地域コミュニティ活性化及び自然環境保全 …… 34
・若者を防災の担い手に …… 35

12 つくる責任 つかう責任
・価格高騰の化成肥料をなんとかせねば！ならば茶細粉を活用してみよう。 …… 7
・お菓子でつなぐみんなの輪　「WANOKA　輪乃菓」商品開発 …… 17
・耕作放棄地の再生と循環経済の実現～地域ブランド確立への道～ …… 36

13 気候変動に具体的な対策を
・COOL CHOICE inしずおか～みんなではじめる、エコな選択～ …… 37

14 海の豊かさを守ろう
・楽しく協力しながら、水辺の環境を守っていきたい！ …… 38

15 陸の豊かさも守ろう
・南アルプス聖沢登山道にレスキューポイント看板寄贈 …… 39

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

5　連携事業所・団体　一覧 …… 40

2 令和５年度　静岡市SDGs連携アワード　概要

1 静岡市 SDGs 連携アワードとは

地域課題の解決に向け、持続可能な開発目標「SDGs」の目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）を通じた事業所・団体間の連携した取組を増やすことを目的としており、SDGs達成に向けて行われる取組のうち、事業所・団体間の連携を誘引しやすく、汎用性の高い取組を行っている２以上の異なる事業所・団体によるグループを表彰します。

このような連携した取組に特化した表彰制度は、国内初の試みになります。

2 評価項目及び基準

提出された「応募シート」の記載内容から、【汎用性】及び【For SDGs】の各項目について評価を行い、選考委員会の意見を踏まえ、総合的に表彰対象を選考します。

【汎用性】

項　目	着目点
連携可能性	様々な分野による連携が可能か （様々な事業所・団体が参加しやすいか） （限られた事業所・団体でのみ連携可能な取組でないか）
普遍性	何をきっかけに取組が進められたか （特殊な環境・要因が介在していないか）
持続可能性	取組・連携の継続が期待できるか （取組を継続させるのに特殊な技術や資金が必要とならないか）

【For SDGs】

項　目	着目点
効　果	17の目標の達成に貢献できるか （環境・経済・社会のいずれもの目標達成に貢献しているか） （SDGsの普及、啓発だけにとどまっていないか）
新規性	目新しさ・ユニークさがあるか （他で行っていない取組又は知られていない取組か）

3 応募におけるメリット

受賞または事例集に掲載されることによる広告効果
・市HP及び冊子にて公表されることによる情報発信

他事業所・団体の取組を把握し、連携の模索・強化
・他の取組を知ることによる連携機会の増加

4 令和５年度　選考委員会　委員

選考委員会は、環境、経済、社会、教育分野等に関係する有識者、学識経験者等から幅広く委員を構成しています。

	氏　名	所　属
委員長	佐久間　信哉	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授
委　員	佐々木　真二郎	環境省　大臣官房 地域政策課　地域循環共生圏推進室長 総合政策課　民間活動支援室長

	氏　名	所　属
委　員	阪口　瀬理奈	一般財団法人 静岡経済研究所 特任研究員
委　員	小林　祐介	一般社団法人 草薙カルテッド事務局 ディレクター
委　員	山本　由加	静岡市社会教育委員会議 委員

3 大賞・部門賞・特別賞　事例紹介

SDGsローカルハブ都市

SDGs AWARD in Shizuoka City

大　賞

SDGs AWARD in Shizuoka City

部 門 賞

・ローカルビジネス　部門
・ローカルアクション部門
・パートナーシップ　部門
・ユースアクション　部門

SDGs AWARD in Shizuoka City

SDGsローカルハブ都市
特 別 賞

大　賞

選考委員からのコメント

静岡らしいお茶の細粉の活用により、農業生産者と茶商工業者のパートナーシップで循環型農業を目指す取組であり、経済・社会・環境の三側面それぞれに高い効果が認められるとともに、汎用性も期待されるなど、応募事例の中で最も優れた取組と言える。

茶の生産と加工が、循環型農業として繋がる点でSDGsへ大きく貢献している。加えて堆肥製造の際、細粉を混ぜ込むのみで特殊技術不要であり、また茶の品質低下が起きないことも、一般普及の可能性が高まる現実味のある取組として高く評価された。

SDGsインパクト

【ターゲット9.4】
資源利用率の向上等による産業改善により、持続可能性を向上させる

茶産業を中心とした循環型農業という産業基盤が構築されていることは、お茶のまちと呼ばれる静岡の強みを生かした事例であるといえる。今後も連携先が広がり、さらに先進的な取組として発展していくことが期待される。

【ターゲット 12.5】
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する

お茶を製品化する際に排出される「細粉」を堆肥と混ぜ合わせ、肥料として再び茶栽培に活用するという循環型農業を実現している。このような循環型の仕組みが、幅広い分野で応用されることで、持続可能な社会が構築されていく。

【ターゲット 17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

茶生産者と茶加工販売者の連携により始まった循環型農業の仕組みが、今後は農業協同組合や商工業組合などのステークホルダーを通じて普及することで、どの業界でも循環型の仕組みを取り入れられるようになる。

価格高騰の化成肥料をなんとかせねば！　ならば茶細粉を活用してみよう。

成茶加納株式会社×大場製茶

1.取組概要

茶生産者が製造した荒茶を茶加工販売業者が仕上げ加工（製品化）する際に、細粉 <ほそこ> が排出されます。細粉は茶葉と同等の有効な機能成分を持っていますが、形状が細かく商品としての価値を評価されません。成茶加納(株)は排出された細粉を大場製茶に無償提供し、大場製茶はその細粉を堆肥に混ぜ、肥料として再利用しています。高騰する肥料代を抑え茶の品質を維持することを主眼としていましたが、今後この取組みは循環型農業の実践手法のひとつとして注目され、取組み事例もさらに増えていくに違いありません。

2.該当するSDGs目標

細粉0.3tと堆肥2.7tと混ぜ合わせて3tの肥料を作ります。これを3haの茶園に1t/年の割合で使用します。現在は化成肥料を補う形での使用にとどまっていますが、今後使用比率を増やしていけば持続可能な循環型農業の充実に貢献できるはずです。

まず「持続可能な循環型農業を実践する」という意志を生産者と商工業者が共有します。そのことにより実践のための構想が生まれビジョンを描くことができます。最終的には両者が協働・連携することにより構想の実現を目指します。

先端技術を活用して、茶生産における省力化や生産性向上、高品質化、環境負荷の低減化を図るスマート茶業は、リサイクルシステム確立に有効であるばかりでなく、循環型農業や茶産業を支える基盤になります。

3.取組イメージ

4.ポイント

生産者は茶の品質を低下させずに肥料代の節約に資げることができ、商工業者は仕上げ加工で排出する細粉を有償廃棄しなくて済むというメリットを享受できます。また、化成肥料の使用量を減らすことで自然環境への負荷を軽減し、「茶加工での廃棄物を茶生産に活用する」という循環型農業が実践できます。この「三方良し」が実現することは、持続可能な仕組みが出来上がっていることを意味すると考えます。

5.取組が開始されたきっかけと展開

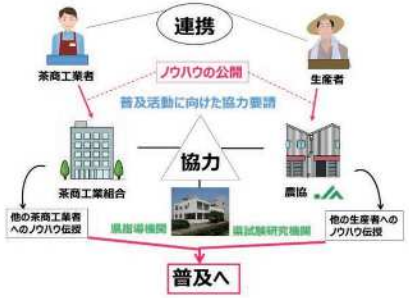
農作物栽培に使われている化成肥料の価格が数年前から高騰しています。
しかし荒茶の取引価格は低迷したままなので、茶農家の経営は年を追って厳しさを増しています。
製造コストを抑えるために施肥量を削減するしかないという声も出ましたが、施肥量を削減すると茶の品質低下を招きます。
生産者は手間暇はかかってもコストを抑制できる「堆肥を利活用する」方法を選択しました。良質なお茶作りを生産者と連携して進めている当社にも協力できることがあるはずだと思い検討を進め、当工場で排出される細粉を無償提供し、堆肥に混ぜて使用してもらうことにしました。これが本取組のきっかけです。
茶殻や細粉に含まれる茶ポリフェノールは、アンモニアなどの悪臭に対して消臭作用を持っています。茶排出物と鶏糞を混合して発酵させることで、堆肥製造時の悪臭の発生を軽減し、悪臭の少ない有機肥料を製造できるという研究成果もあります。
細粉の肥料への利用は、環境に極力負荷をかけず、また関連する事業者達のコスト軽減にも効果が期待できそうなので、今後も広がっていくに違いありません。

6.応募した取組の今後の計画・展開

2022年7月1日に、「みどりの食料システム法」が施行されました。この法律は環境と調和のとれた食料システムの確立を目指し、また一方で農林漁業及び食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展等を図ろうとするものです。私たちはこの流れに沿って、指導機関や研究機関との情報交換を行い、①化成肥料依存から脱却するための先端技術の導入②堆肥に混合可能な茶由来排出物の利用拡大に努めていく所存です。そしてそのことにより、持続可能な茶生産と健全な茶産業の発展を実現していきたいと思います。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

①生産者は地域の農協に、茶商工業者は所属の茶商工業組合に取組み事例（ノウハウ）を公開し、本取組みの普及に向けて協力を要請します。
②農協と茶商工業組合はそれぞれ、組合員である生産者や商工業者にノウハウを提供（伝授）します。ノウハウの公開と提供により、多くの事柄が細部にわたって共有されるので普及されやすい環境が整います。
③一方で農協と茶商工業組合は県の指導機関や試験研究機関と協力しながら、先進技術を応用してこの取組みを促進することができれば、普及は拡大していきます。



部門賞
ローカルビジネス部門

選考委員からのコメント

静岡らしい鰹の「だし」をテーマに産学官連携により新技術を開発し、その活用を地元の飲食店や学生、企業が連携してビジネスモデルを構築することにより、パートナーシップで地域課題を解消し持続可能な地域づくりに貢献しようとする優れた取組である。

「だし」を核に、様々な主体が連携し地域産業を盛り上げている。さらに開発された商品も魅力的で、ビジネスとしての持続性が感じられる、素晴らしい取組。

SDGsインパクト

【ターゲット3.4】
非感染性疾患による若年死亡率を減少させ、精神疾患及び福祉を促進する

健康寿命に着目し、鰹だしを使った健康的な食生活の観点から課題解決に結びつけた取組。
日本食の代表ともいえるだしの技術が次世代に継承されることへの寄与も期待できる。

【ターゲット9.4】
資源利用率の向上等による産業改善により、持続可能性を向上させる

地元商店と研究機関が開発した「だしエキス」から、新商品を生み出し、商品化するという取組は、だし離れという課題解決に加え、地元飲食店を巻き込んだビジネスにも繋がっており、持続可能な産業の基盤であると言える。

【ターゲット11.3】
包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する

だし離れという地元商店の抱える地域課題に対し、地元企業や飲食店、大学が連携して取り組むことで、繋がりの強い、持続可能なまちの実現に繋がっている。

海の街の食文化を守れ！だしの力で地域を元気に！

㈱ドリームプラザ×（有）西尾商店×東海大学×静岡県工業技術研究所
×ふるさと×ワイン食堂 シャンティ×ボン マスダ×麺屋ARIGA

1.取組概要

持続可能な地域活性化を基本理念とする「ドリームプラザ」が地元飲食店とコラボして、伝統工法で削り節を製造している「西尾商店」が東海大学と静岡県工業技術研究所と約2年かけて開発した「だしエキス」を使い、新商品「清水クラフトカリー」を作りました。各企業とドリプラの持っているリソースを掛け合わせ、商品開発、販売ルートの確保・拡大やPRイベントを実施しました。
西尾商店の抱えていた「だし離れ」「日本の食文化の伝承」「経営の持続化」という課題に対し、地元の飲食店や学生、企業が連携して解決策を導くビジネスモデルを構築しました。また、「だし」を通して日本食文化の歴史を伝えながら、健康寿命を延ばす効果も学んでもらいました。「食」「学び」「歴史」「健康」をキーワードに企業と学生連携のもと地域活性化に寄与するプロジェクトです。

2.該当するSDGs目標

清水区興津のたし屋「西尾商店」は、新技術「マイクロ波減圧薬品乾燥装置」を用いて、東海大学と静岡県工業技術研究所の3者と「魚節フレーバー濃縮エキス」を約2年をかけて開発しました。この新技術で開発した「だしエキス」を商品化し流通させることが、産業と技術革新の基盤を作る手だと考え、老若男女に愛されているカレーやアイスに「だしエキス」を使い、商品化しました。利益を出す循環を作り、持続可能なビジネスとなるようにしました。

静岡県は漁獲量日本一、鰹節生産量全国2位。無駄なく使えるノーフードロス食材の「鰹」を使った「だし」。この地元の資源、産業を新たな形で継続させていく事で、持続可能な循環に変えています。この新たな循環を、産学連携で創出し、共に発展していくというビジネスモデルを構築しました。地元の企業や大学が連携しあう事で、企業と企業、人と人との繋がりが強くなり、「まち」の存在感や魅力が高まります。「住みたい」と思うまちづくりを形成しつつ、経済全体が活性化するプロジェクトとして取り組んでいます。

静岡県は高齢化率30%を超えており、医療・介護等、超高齢社会への対応と共に、健康寿命の延伸も重要な課題です。「だし」は食塩や糖分の吸収の抑制に効果的、長寿・肥満防止の一助になります。平均塩分摂取量10g/日(推奨7.5g) →3g/日減というデータが出ています(東大病院薬剤師内科クリニック調べ)。無形文化遺産の和食の基本である「だし」を上手に活用し、和食が持つ健康な食生活の提案で「健康寿命」を延ばします。

3.取組イメージ

4.ポイント

・地元の企業が抱える課題とドリームプラザの持っているリソース（産学連携・発信力）を活用し、地域の抱える問題も同時に解決、発展させるビジネスモデルを構築しました。
・新商品開発を軸に、地元の企業が潤い、地元住民が心身ともに楽しめる商品や仕掛けを提供することで持続可能な地域活性化に貢献します。
・静岡で100年以上の歴史ある「鰹節・だし」を通して、「日本の食文化の伝承」と、地元住民の「健康寿命」を延ばす効果を学んでもらいました。

5.取組が開始されたきっかけと展開

創業118年の西尾商店は、便利だしの代替品の台頭に伴う「だし離れ」、「日本食文化の継承」「経営の持続化」という課題を抱えてました。持続可能な経営をするために、東海大学と静岡県工業技術研究所と組んで「育り」「うまみ」を抽出した"新しいだし"として、「魚節フレーバー濃縮エキス」を開発しました。
一方ドリームプラザは、魅力ある街づくりを目指し、地域の飲食店4店舗「ふるさと」「ボンマスダ」「シャンティ」「麺屋ARIGA」と共に「街の元気は飲食店が握ってる！清水を元気に！」をテーマに、船上ディナークルーズや料理教室の開催などの活動をしていました。西尾商店より、「だしエキス」の活用の相談を受け、地域産業の活性化と、地域資源の価値の向上を課題としていたドリームプラザは、協働している地域の飲食店4店舗と連携し、商品開発、PRイベント・拡販をすることを提案しました。各社との相談の結果、老若男女に人気のドリームプラザのカレーをアレンジして商品化しました。「清水クラフトカリー」の試食販売イベントをドリームプラザで開催し、グルメスタンプラリー（ドリームプラザと飲食店4店舗での食事ラリー）を実施しました。2カ月半で200名の方が挑戦して12名の方が制覇しました。「清水クラフトカリー」は3,000個完売、現在増産中です。同時に西尾商店による「だし教室」を開き、健康的な食生活やだしの歴史を紹介しました。
また、「だしエキス」の新商品として東海大学SAC商品開発PJの学生が「かつおぶしアイス」の開発をし、西尾商店と共にドリプラで試食販売会を実施し、100個を販売し、「だし」の魅力を伝えました。継続して店舗で取り扱い販売中です。

6.応募した取組の今後の計画・展開

地元企業や大学と協力して、「だしエキス」を使った新しい商品開発をし、「地域産業の発展」と「地域住民の健康向上」の発信を続けていきます。
昨年から取り組んでいるSDGSs学習講座に今回の取り組みを加え、「静岡清水サステナブルツアー」と称し県内外の方々に発信していきます。
ドリームプラザは、日本で唯一の「清水すしミュージアム」を運営しており、寿司の歴史や文化を国内外に発信しています。併せて、大型客船寄港地のすぐ側に立地しており、多くの海外の観光客が来る場所であることから、インバウンド向け商品も充化して販売していく予定です。
・西尾商店の「だし文化の継承を伝える。だしから日本の食文化を学ぶ」
学習講座（11月23日80名程行予定）
・インバウンド向け
「だしと寿司の歴史を学ぶ体験型ツアー」を立案中。
西尾商店工場見学(削り節体験・だし引き体験)
→清水すしミュージアム（ドリームプラザ）見学
→和食・寿司の紹介→清水港内遊覧船乗船

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

地元の企業や大学と連携して、魅力ある地域資源・産業の活用と新たな価値を創造

地元の歴史ある企業(産業)の存続の危機と、歴史ある日本の食文化の継承が難しくなっているという課題に対して、多くの企業や学生と連携し、それぞれの得意分野をフル活動させ、「だし」を使った商品を開発しました。
・食品のうまみが増す ・健康になる
・無形文化遺産である和食の基本「だし」を通した日本の食文化の継承と、「だし」を軸に新商品だけでない多くの価値を創出することができました。

静岡には様々な食に関しての「日本一」があります。県民・市民が気づかない魅力ある地域の資源を活用して、それぞれの課題を今回のように、色々な企業や学生達と連携する取組みで解決が可能です。地域の産業を守ることは地域の課題でもあり、我々地域に根差す企業の使命でもあります。地域の経済をおこし、産業を持続化できます。
この仕組みは、他の事業所・団体でも真似しやすく、汎用性も高いと考えます。ドリームプラザのような核になる事業団体がいれば、それぞれの地域産業に絡めたビジネスモデルプランを作り、地元に広める事が可能となります。

企業課題に皆で取り組み、地域全体が活性化する動きへ

部門賞
ローカルアクション部門

選考委員からのコメント

松葉の着火剤は、松の燃えやすい性質を活かした新たな発想であり、雇用や経済循環の創出、商品販売を視野に入れた協働体制が評価できる。キャンプでの活用など楽しさが活動に加わることで、ともすると地道になりがちな保全活動に更なる弾みがつくことを期待したい。

継続性や分かりやすさからも、様々な人が自然と巻き込まれていく仕組みになっており、この後の発展が楽しみな取り組みである。持続可能な取組にしていくために、資金面に関しても考えられている点が評価できる。

SDGsインパクト

【ターゲット4.4】
技術的・職業的スキルなどを備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる

小学生が三保松原保全活動を実際に体験しながらその目的や必要性を学び、環境保全に関する知識習得や地域への愛着を高める効果を期待できる。地域社会への貢献度の高い取組である。

【ターゲット 15.1】
陸域生態系及びそのサービス保全、回復及び持続可能な利用を確保する

焼却処分されるはずの松葉に着火剤として新たな価値を見出し、販売することで保全活動費に還元していくという、循環型の取組である。また、小学生という次世代の担い手を巻き込んだ、持続可能な三保松原の保全に貢献する取組である。

【ターゲット 17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

小学生をはじめ学生から社会人、地域住民など様々な立場・業種の人々が集めた松葉を、就労継続支援施設で袋詰めして商品化していくという、パートナーシップが活かされた取組であり、今後も連携の広がりが期待できる。

富士山文化遺産 三保松原の保全活動で集めた松葉アップサイクル「みほのまつあかり」商品化

**日興美術(株) ×一社)三保松原3ringsプロジェクト×
(株)ライフプラス×三保コミュニティデザインLabo× 清水三保第一小学校**

1.取組概要

富士山世界文化遺産の構成資産登録から10年経った「三保松原」。その松原の保全活動の一環で、松林の清掃が行われております。清掃で集められた「松葉」のほどんどは、焼却処分されていますが、「三保松原3ringsプロジェクト」においては、松葉を使った商品開発・販売による持続可能な保全活動体制づくりに取り組んでいます。そこで本事業では、清掃活動で回収された松葉を着火剤として新たに商品開発。DIYショップや土産店等で販売し、その収益の一部を3ringsプロジェクトに寄付し活動費に還元し、持続可能な保全活動のサイクルに貢献します。
また、地域学習の一環として本取組みを地元小学校に紹介し、保全活動の大切さを子どもたちに伝えていくことで、未来への人材育成にも貢献します。

2.該当するSDGs目標

地域学習の一環として、松原保全活動を行っている清水三保第一小学校。その児童がSDGsと関連させながら松原保全の目的と必要性を、より深く理解するため、学校と地域が連携し、松原保全の重要性に関する授業を実施しました。

富士山世界文化遺産の三保松原の美しい景観を持続可能にすることを目的とし、保全団体3ringsプロジェクトと共同で松葉を回収し、着火剤を共同開発・販売。
その収益の一部を保全活動費に繋げることができました。

小学生の教育活動。さらには民間企業、就労継続支援事業団体など産学連携による保全活動におけるアップサイクルの仕組みを構築することができました。今後はさらに他の団体とも連携し事業の発展を目指します。

3.取組イメージ

4.ポイント

保全活動で回収された松葉の再利用・商品化により、静岡市の文化資産への再注目と意識向上を図り、持続可能な保全活動の基盤と雇用の創出を実現することができました。

5.取組が開始されたきっかけと展開

世界文化遺産である三保松原の保全活動の一環で、3ringsプロジェクトにより毎週土曜日に学生・企業・地域住民らを巻き込んだ松林の清掃が行われていることを知り参加したところ、清掃活動で集められた「松葉」のほどんどは焼却処分となっていることが、わかりました。
また同時に、地元の清水三保第一小学校の子どもたちが、地域学習の一環として、松原保全活動を行っていることも知りました。
そこで、小学生の教育活動と合わせ、産学連携で持続可能な活動の仕組みの構築へと動きだしました。

・清水三保第一小学校の保全活動とSDGsに関する授業を行いました。
・企業団体においては、持続可能な仕組みづくりのための商品開発・および雇用創出の実現ができました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

地元アウトドアショップをはじめ、全国のDIYショップキャンプ場などに販売を広め、世界文化遺産である三保松原のPR活動（アウトドア系ユーチューバーとのコラボなど）、観光推進、地方創生に貢献することを目標とします。

また同時に、三保松原の保全活動×SDGsに関する授業の推進および展開をしていきます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

1）三保松原のみならず、全国の松林の現状として松葉が堆肥化し雑草が増え、松の生育に支障をきたしています。

2）地元住民や保全活動団体が中心となり回収作業を毎週行っています。この作業には参加費を徴収せず誰でも自由に参加できます。

3）三保では回収した松葉の大半は可燃ゴミとして焼却処分されています。

4）回収した松葉を再利用し商品化することで、雇用の創出と、収益の一部を持続可能な保全活動の支援に役立てることができます。

5）地域学習の一環として、松林の保全活動の重要性を将来を担う子どもたちに伝えていき、住み続けられる街づくりを継続しています。

部門賞
パートナーシップ部門

選考委員からのコメント

静岡市の家庭から出る燃えるゴミの4分の1以上が紙類で、そのうちの半分以上がリサイクル可能な「雑紙」である。紙類は分別することで資源として活用できますが、更なる市民の協力が必要であり、重要な取り組みといえる。

「雑紙回収」はあらゆる家庭にとって参加できる可能性があり、かつ参画企業・団体それぞれの強みが活きた取組みとなっている。今後も新たな参加者が増えることで、地域全体のＳＤＧｓへの関心を高めることに繋がることが期待できる。

SDGsインパクト

【ターゲット 12.5】
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する

紙ごみ分別に関する課題に着目し、子どもたちを中心に雑誌回収を行い、回収量を競い合うなど、ゲーム性のあるリサイクルを実体験してもらうことで、楽しみながら持続可能な仕組みを学ぶ機会の提供にも繋がっている。

【ターゲット 13.3】
気候変動の緩和、適応、影響軽減等に関する教育、啓発及び人的能力等を改善する

燃やされるはずであった紙ごみがリサイクルされることで、二酸化炭素排出量の削減に直接的に貢献する取組。
気候変動への対応が喫緊の課題である今、資源循環を進めていく本取組がさらに広がっていくことを期待したい。

【ターゲット 17.17】
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

企業同士の連携で始まった取組が、一般市民参加型の開かれた取組として発展している。今後も地元企業、団体、住民、子どもたちと様々な人々を巻き込み、環境課題解決に通じる大きな取組となっていくことが期待できる。

SDGs環境教育プログラム『雑紙を集めてトイレットペーパーにリサイクル！』～SDFエリア対抗雑紙回収League＆Cup～

（株）エスパルス × コアレックス信栄（株） × 東海大学付属静岡翔洋高等学校 × 静岡県地球温暖化防止活動推進センター

1.取組概要

エスパルスは2007年より「地球にやさしいサッカークラブであるために。次世代に快適にサッカーのできる環境を引き継いでいくために。」をコンセプトに、行政・企業・教育機関等と連携し「エスパルスエコチャレンジ」を継続的に実施しています。こうした活動を加速させていくためには次世代を担う子どもたちへの環境教育活動が重要であると認識しています。そこで、年中～小学6年生の子どもたちを中心とし、エスパルスドリームフィールド県下5拠点にて雑紙を回収する企画を年間を通じて開催しました。ゴミとなる雑紙を各家庭で分別・回収し、実体験を通じてトイレットペーパーへのリサイクルとCO2削減について学ぶ企画です。リサイクルされたトイレットペーパーは子どもたちへ還元・地域への寄付という2パターンを用意し、より広く地域へ周知できるような企画となっております。

2.該当するSDGs目標

燃やされているゴミの約3割が紙資源と言われている現在、資源を有効に効率的に使うべく、誰もが意識1つで参加可能な雑紙回収企画を子どもたち中心に広く周知。ゴミとなる雑紙を回収しトイレットペーパーにリサイクル。2023年2月～7月で約8トンの雑紙を回収。

2023年2月～7月で約8トンの雑紙を回収。この雑紙を溶解・リサイクルしたことで、ゴミとして焼却した場合と比較して約6,500kgのCO2排出量を削減することに成功。

エスパルスの強みである、エスパルスサッカースクールに関わる子どもたちやそのご家庭への情報発信力、コアレックス信栄の雑紙リサイクルへの特殊技術、東海大学付属静岡翔洋高等学校の生徒による子どもたちへの環境レクチャー、静岡県地球温暖化防止活動推進センターによる専門的な知見の供与という4団体によるパートナーシップにより本企画は実現しました。

3.取組イメージ

4.ポイント

日常生活の一部となっているサッカーの練習時に雑紙を回収することで、紙ごみの分別が習慣付き生活に浸透したこと、エスパルスドリームフィールド県下5施設(駿東・富士・清水・静岡・藤枝)を中心に回収したことで幅広い地域に周知できたこと、意識1つで誰でも始めることができる取り組みを、雑紙回収からリサイクル品の提供まで一連の流れを実体験できる企画であることがポイントです。

5.取組が開始されたきっかけと展開

・コアレックス信栄とはこれまで、エスパルスホームゲームで排出される紙ゴミの一部回収等で以前からリサイクル活動を推進していましたが、日常生活の中で各家庭から出る雑紙を回収しトイレットペーパーにリサイクルする活動へと発展させ、子どもたちへの環境教育活動を担いながら各ご家庭での資源有効活用推進の意識向上浸透を目指しました。

・雑紙回収を地域対抗戦といったスタイルで企画し、各エリアごとの回収量を定期的に周知し、飽きがこないよう競い・楽しみながらリサイクル活動ができるような仕掛けとしました。

・年2回開催する「ゼロカーボンサッカークリニック」では東海大学付属静岡翔洋高等学校の生徒さんにも参画いただき、環境レクチャーの講師役、子どもたちと一緒に身体を動かすサポートコーチとしても対応いただき、環境教育活動の輪を大きくすることができました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

・現在の企画内でも100%全てのご家庭が参画している訳ではありません。より高い割合での参画、日常正確の中での浸透、高い精度での雑紙回収を目指します。

・お取引のある関連企業の参画、エスパルスサッカースクール生以外にも一般の方の参画を促進し、より広く本企画を周知していきます。またより身近な場所でリサイクル活動ができるよう回収拠点を増やしていきます。

・多くの人が集まり、注目度のあるエスパルスホームゲーム、コアレックス信栄のイベント、東海大学付属静岡翔洋高等学校でのイベントなどにて、雑紙回収からトイレットペーパーへのリサイクル活動を広く周知し多くの皆様の参画を促します。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

1.皆さん1人1人の意識と行動を変えるだけで、誰でも・いつでも・どこにいても紙資源の分別とリサイクルは可能です！

2.事業所においても、不要となる紙資源を分別するだけでリサイクル可能です。雑再生古紙のリサイクルや機密文書の処理も可能です。

3.エスパルスがハブとなり、地域の皆様・各企業を繋ぎリサイクルを促進します。またエスパルスの情報発信力を生かし、回収量の見える化、地域への還元を広く周知します。

部門賞
ユースアクション部門

選考委員からのコメント

高校生が中心となり、茶やその関連製品製造の過程で出る廃棄物を「未利用資源」とポジティブに転換して製造したエシカル紙の名刺は、静岡らしいブランド力を備えた営業ツールとなる可能性を秘めている。その企画力と実行力に輝きがあった。

静岡市らしい取組になっており、新たなお茶の活用方法としてとても面白い。
高校生が中心になって取り組んでいることから、同世代に「私も何かやってみたい」という連鎖が生まれ、持続可能なまちづくりにつながることも期待できる。

SDGsインパクト

【ターゲット2.4】
生産性を向上させ、持続可能な食料生産システムを確保する

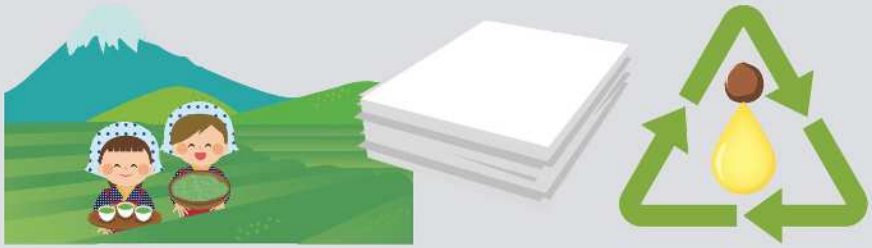
茶抄紙が広まり、お茶が無駄のない資源として注目され、有効活用されていくことは、茶農家をはじめとした農業界の活性化に貢献する。お茶に限らず農産物資源に着目したエシカルな取組への波及を期待したい。

【ターゲット4.7】
全ての学習者が、持続可能な開発の知識とスキルを習得できるようになる

茶の実油等の製造過程で生じるお茶の未利用資源を抄紙としてアップサイクルすることで、エシカル消費を実現する取組であり、高校生を中心として活動が進められていくことで、次世代への繋がりも期待できる。

【ターゲット 12.5】
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する

お茶の未利用資源から新たな価値を創出するという取組は「お茶のまち」と呼ばれる静岡市ならではの取組である。この茶抄紙を日常で使用することがリサイクルであり、ぜひ広がってほしい取組である。



茶関連未利用資源アップサイクルプロジェクト「茶っぷさいくる～茶抄紙～」

一般社団法人しずおかビジョン研究所 × 株式会社白形傳四郎商店 × 株式会社西商店 × 有限会社飯塚印刷 × 株式会社STI

1.取組概要

高校生が中心となって、「お茶のまち静岡市」ならではのプロジェクトをパートナ企業と連携しながら実施しました。お茶の未利用資源（茶の実油搾油・製茶加工工程で生じる未利用資源）をアップサイクルし、エシカル紙を製造する「茶っぷさいくる～茶抄紙（ちゃしょうし）～」プロジェクトは、エシカル消費や持続可能なライフサイクルへの理解を促進するとともに、「お茶のまち」にふさわしいエシカル紙を普及させることで、シビックプライドの醸成と茶農家支援に貢献していくことを目指します。

2.該当するSDGs目標

高校生が自ら地域の課題について考え、具体的な行動を起こすことで、次代を担う若者の育成と地域活性化を目指しています。

加工工程で発生する未利用資源をアップサイクルすることで循環型社会の実現に貢献しています。本プロジェクトでは、約600kgの再生資源を活用しています。

エシカル消費や持続可能なライフサイクルへの理解を促進することで気候変動問題に貢献しています。今後は、お茶以外の農産物未利用資源のアップサイクルへの発展を目指しています。

3.取組イメージ

←企画会議風景

ロゴ等↓

←サンプル制作→

4.ポイント

未利用資源の価値に着目し、連携パートナーと協働して、新たな価値を生み出すと同時に、環境的にも経済的にも循環型社会の実現に貢献しているところがポイントです。
さらに、高校生が郷土愛醸成に自ら取り組んでいることも魅力となっています。

5.取組が開始されたきっかけと展開

広島市職員の方から、平和祈念式典に届く折り鶴を再生紙に変えたプロジェクトの名刺をもらったことがきっかけです。
静岡市でも静岡市らしいエシカル商材の利活用ができないか、シビックプライドの醸成や都市ブランド向上に貢献できないか、という想いからスタートしました。
「静岡市＝お茶」であることから、連携パートナーに調査を実施し、茶関連未利用資源の活用をめざしたエシカル紙の製造にたどり着きました。
製造にあたり、原料を集め粉砕する作業に非常に苦労しました。

←連携パートナー調査風景

茶の実（搾油前）→

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後は、名刺や紙ファイルだけでなく、封筒や紙食器などにも発展させて、官公庁や多くの企業・団体でも使用してもらえるように継続して普及啓発に取り組んでいきます。
さらに、静岡市の他農産物未利用資源も活用してエシカル紙を製造することで、農業や農家の活性化や支援に貢献していく予定です。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

製造工程で見落とされがちな未利用資源について、他業種とも連携して知識や経験を掛け合わせれば、エシカル商材の制作ができることから、他の事業者・団体も真似しやすく汎用性が高いと考えます。
また、エシカル商材は派生がしやすく、例えば本プロジェクトのエシカル紙も各種紙食器など、まだまだ多くの利活用が可能です。
高校生のアイデアと企画力で実現した本プロジェクトが、今後多くの地域独自のエシカル商材を普及させていくきっかけとして寄与できることを願います。

SDGsローカルハブ都市 特別賞

選考委員からのコメント

地域産業(米、桜エビ、お茶など)で本来廃棄される材料をアップサイクルし、魅力的なお菓子をつくりあげている。さらに障害者就労施設で製造しており、農福連携事業としても素晴らしい取り組み。

既存の商品製造とはマッチしないために「廃棄物」とされてしまう食材を、静岡らしい味わいのおかきに生まれ変わらせている。またコンビニエンスストアに販路を確保していることにも、卓越した商品開発力や営業力、持続可能性を感じる。

SDGsローカルハブ都市特別賞のポイント

障害者就労施設を主体として地元商店や企業が繋がり、廃棄食材から新商品を開発した本取組は、**共創による安心感のある温かい社会の実現に向けたモデルケース**であるといえる。SDGs ハブ都市である静岡市から、国内だけでなく、海外に向けても参考事例として発信していきたい取組。

SDGsインパクト

【ターゲット1.4】
貧困層及び脆弱層が基礎的サービスへのアクセスに加え、経済的資源についても平等な権利を確保する

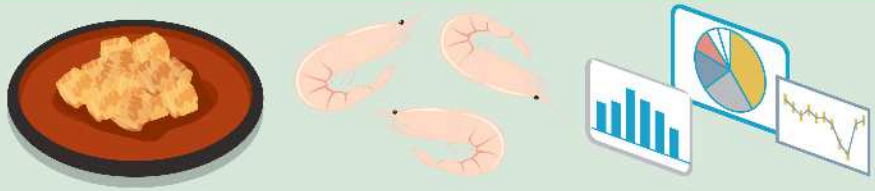
障害者就労支援施設が主体となった取組であり、商品が売れることで工賃（経済力）の向上に直接つながる。また、この取組が広まることで障害者雇用の増加にも期待できる。

【ターゲット8.5】
障害者を含む全ての男性及び女性の生産的な雇用及び働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する

地元の廃棄食材から新商品を開発、販売する過程を通じて、本取組に関わった全ての人へ、働きがいの創出や地元愛の醸成などの副次的効果が期待できる。

【ターゲット12.5】
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する

静岡市産のお茶や桜エビなどで廃棄される食材をおかきにリメイクして商品化した本取組は、多くの人の手に渡ることで食品ロス削減・地産地消に貢献している。



お菓子でつなぐみんなの輪 「WANOKA 輪乃菓」商品開発

社会福祉法人愛誠会アトリエ・ポルト × 大石米穀店 × 株式会社鈴和商店 × (有)和田長治商店 × ㈱セブン-イレブン・ジャパン及びセブン-イレブン加盟店 × おいしい産業㈱

1.取組概要

地元で生産された廃棄されてしまう食材を活用し、障害者就労施設にておかき「WANOKA 輪乃菓」を作る取り組みです。原料には割れたり、欠けていることから廃棄してしまうもち米をおもちにし、味付けには静岡市内産の食材で、廃棄されてしまうお茶や桜エビのひげ、アカモク、ミカンの皮を使用しています。製造した「WANOKA 輪乃菓」は、市内の一部のセブン-イレブン加盟店でも販売をしており、売上は経費の一部を除き、障がい者の工賃となっています。

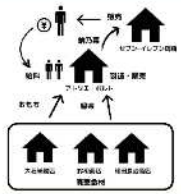
2.該当するSDGs目標

廃棄してしまう食材の削減を目指します。
もち米は毎月約14kgをおかきの原料として使用しています。おかきの味付けに、廃棄してしまう緑茶や桜エビのひげやアカモクを使用し、廃棄食材の削減と地元食材の活用の呼びかけを行います。

静岡市企業連携として、㈱セブン-イレブン・ジャパンを通じ、静岡市内のセブン-イレブン加盟店7店舗での「WANOKA 輪乃菓」の販売を実現しました。取り組みの周知や商品が売れる事による経済効果を目指します。

障害者就労施設で「WANOKA 輪乃菓」を製造することで、障がいを持つ方の働く場を作ることができ、売上がアップすることにより、工賃の向上が見込まれます。

3.取組イメージ



4.ポイント

障がいを持った人が作るお菓子が、廃棄されてしまう食材を助け、食材を作る生産者を助け、食べてくれた人を笑顔にする。そんなみんなの輪をつなげる役割になりたいとの気持ちを込めて「WANOKA 輪乃菓」と名付けました。みんなが少しずつ助け合いながら、おいしくSDGｓに取り組める活動です。

5.取組が開始されたきっかけと展開

甘いお菓子以外の商品を作りたいという思いから、令和3年度静岡市工賃向上アドバイザー派遣事業に応募をしました。専門知識を持つアドバイザー（株式会社静岡伊勢丹、学校法人鈴木学園中央調理製菓専門学校静岡校）の指導を受け、商品開発をスタートしました。大石米穀店より依頼された廃棄してしまうもち米の活用をヒントに、おかきを作ることになり、さらにSDGsの取り組みを深めるため、味つけを静岡市産の廃棄してしまう食材を活用することにしました。桜エビのひげの粉末やアカモクはおいしい産業㈱が加工している物を使用し、緑茶は和田長治商店や鈴和商店より廃棄する緑茶を提供してもらいました。
静岡市企業連携として、㈱セブン-イレブン・ジャパンを通じ、市内のセブン-イレブン加盟店7店舗にて販売の機会をいただき、商品や取り組みの周知、売上向上に向けて取り組んでいます。

6.応募した取組の今後の計画・展開

現在、5種類ある「WANOKA 輪乃菓」の味付けを、今後、静岡市の特産品（しょうが、わさび、いちご等）の廃棄食材を使用し、さらにバリエーションを増やしていきたいです。それにより連携する事業所も増え、より多くの人とSDGｓの取り組みを行っていきたいです。
また、「WANOKA 輪乃菓」の販売先として、首都圏のセレクトショップ等の県外にも売り込みをし、SDGｓの取り組みと共に静岡市の特産品のアピールも行い、売上を伸ばしていきたいです。今後も製造数を増やすことで、廃棄食材のさらなる削減を目指します。販売先が増えた先には、大量生産に対応できるよう「WANOKA 輪乃菓」の製造方法を他の障害者就労施設にも伝え、より多くの障がいを持った方の就労機会の提供や工賃向上を目指していきたいです。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

食材の廃棄にはお金がかかることもあり、処分に困っている生産者も多いです。そのため、廃棄食材の提供に協力をしていただけるチャンスも多いです。
また、生産者の方がこだわって作られた食材は、形や見た目が悪くても、品質がよく、素材の味が良いです。素材を生かした商品を作れるため、製造の工程がシンプルになり、障がいを持った方が製造に関わりやすくなります。
商品の開発については、静岡市の事業等を活用することで専門家の支援が得られ、知識や技量に自信がない事業所でも新しい商品を考えることができます。
お菓子を通してのSDGsの取り組みは、食材の生産から加工、商品の製造、販売、購入者までさまざまな分野の人に関われる可能性があります。また、商品の販売を通して、取り組みを知る機会を作ることができ、SDGｓについて興味のない人にもアプローチする機会が作れると思います。

地域で子どもを見守るためのハンドブック制作

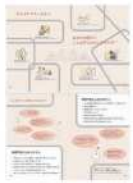
川原地区社会福祉協議会×一般社団法人しずおかビジョン研究所

1.取組概要	まだまだ認知度の低い家族の世話・介護に追われている「ヤングケアラー」について、地域に潜在する「ヤングケアラー」を見落とすことのないように、子どもたちと接する機会の多い地域活動参加者に対して、認知度向上をめざしたハンドブックを制作しました。大学生によるイラストを織り交ぜ、理解しやすくするとともに、相談を受けた後の対応についての流れや支援関係機関を明記することで、子どもたちを見守る地域包括力の強化と、悩みを抱える子どもたちが一人でも減ることに貢献しています。

2.該当するSDGs目標

1	地元密着の地域活動団体が、子どもたちが抱えている課題や悩みに積極的に取り組むことで、子どもたちの救いになることを目指しています。 ハンドブックを関係者に配布（約100冊）しました。
4	子どもたちが享受すべき「子どもの権利」がしっかりと受けられるように、地域全体で包括的に支援することで、教育の充実化を目指しています。 ハンドブックを学校関係者に配布（約50冊）しました。
11	地域住民が主体的となって次代を担う子どもたちについて考え支援する機会を提供することで、地域ぐるみで子どもを育む環境の実現を目指しています。

3.取組イメージ



4.ポイント

行政や教育機関が主体となって取り組むことが多い「ヤングケアラー」問題について、課題解決に向けて子どもたちと触れ合う機会の多い地域活動団体が、自らの地域や子どもたちのために取り組んでいるとことがポイントです。

5.取組が開始されたきっかけと展開

地域活動中に子どもとの何気ない会話・相談がきっかけでした。「ヤングケアラー」というワードについて知ってはいても、具体的な課題や内容について把握できておらず、実際にそのような環境の子どもを見かける機会の多い地域関係者が、子どものSOSを見逃すことなく、支援の手を差し伸べられる環境を作りたい、という想いで取り組みました。
制作にあたり、実際に地域関係者にヒアリングを重ねた結果、世代によって「ヤングケアラー」についての認知度や理解度にギャップがあり、特に高齢者においては、自らが同様の環境で育った経験等から、それの何が問題なのか、を理解してもらえるよう、行政や教育関係者にも聞き取りをしながら、わかりやすく落とし込みやすい内容づくりを心がけました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

今後はハンドブックによる子どもと関わる機会の多い関係者向けのセミナーを定期的に実施していきます。また、単年度で終了することなく、定期的に行政・教育・地域関係者と意見交換を繰り返しながらブラッシュアップし、地域が子どもを見守れる環境を着実に構築していく予定です。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

一般的なマニュアルと異なり、地域ごとにそれぞれ抱えている背景や課題が異なっているため、それに応じて本ハンドブックを参考にしながら、各地域版ハンドブックを制作することができると考えます。
地域が包括的に子どもたちの抱えている課題に真剣に向き合っていることが感じられる活動は、子どもや保護者に安心感を提供できるとともに、郷土愛醸成につながっていきます。
コミュニティ・スクール活動の一環として、地域関係者と子どもたちが密接になっていく一つのきっかけとなる本取り組みが、他地域でも広まっていくことを期待しています。

健康な食環境づくりを！「スマートミール応援プロジェクト」

静清信用金庫× 静岡県立大学 ×
はなももキッチン・おかずやmaspi・Rotisserie Un Deux・Cafe Yamazaki・黒猫ナポリ

1.取組概要	現在、日本人の食料消費の約8割は加工品と外食であり、外食や中食で健康的な食事の選択肢を増やすことが社会課題となっています。また、国民医療費が40兆円を超える中、経済政策面からも健康寿命の延伸に向けた取組みが求められております。こうした中、食に関する課題解決に向け、静清信用金庫と静岡県立大学が協働し、「健康な食事・食環境」認証制度（健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事『スマートミール』を継続的に健康的な環境で提供する事業者を認証する制度）取得を支援する「スマートミール応援プロジェクト」をスタートさせ、今般5事業者が認証を取得致しました。

2.該当するSDGs目標

3	栄養バランスのとれた食事を提供することで、地域住民の健康な体づくりや健康意識の向上を目指します。
8	認証を受けた事業者のイメージアップを図り、売上・収益増加による成長を応援します。
12	安心・安全な食環境の提供によりエシカル消費を推進します。

3.取組イメージ

4.ポイント

家庭以外で食をとることが多くなった今日において、外食や中食で健康に配慮したメニューを提供し、地域住民の健康な体づくりや健康意識を向上させることを目指します。また、事業者にとっても、他店との差別化が図られ、店の強みとして集客力向上が期待できます。

5.取組が開始されたきっかけと展開

- 静清信用金庫と静岡県立大学は平成28年に「地方創生に関する連携協定及び相互協力に関する協定書」を締結しており、令和2年には静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター（COCセンター）との共同事業「健康的な食の提供モデル構築事業」を実施し、「健康な弁当メニュー」を開発しました。
- 当金庫（2020年以降、健康経営優良法人の認証を継続取得）が健康経営を推進するなかで、「食」をテーマとして上記事業を発展させられないか、また、コロナ禍で対応に苦慮している飲食関連業者への新たな支援ができないかと考え、地域の健康づくり推進のため、COCセンターと協働し、スマートミールの研究・普及に取り組む静岡県立大学食品栄養科学部の市川教授及び串田講師の協力を得て、今回の「スマートミール応援プロジェクト」が実現しました。
- 静清信用金庫の募集により参加した5事業者は、静岡県立大学による栄養価計算などの学術分野での協力のもとスマートミールメニューを完成させ、認証を取得することができました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

- 今回のプロジェクトを通じて認証取得した5事業者のPRを各種メディアを活用して行い、スマートミールの普及に努め、地域の健康意識向上へ貢献していきます。
- コロナ禍で苦境に立たされた飲食関連事業者の支援、および健康経営の推進という面から、今年度は行政との連携も検討しながら応援プロジェクト第２弾を実施していきたいと考えております。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

教育機関は地域事業者との連携に対して前向きであり、地方創生に係る連携事業の相談がしやすい点、および対象となる飲食業者が大変多い点で汎用性が高いと考えます。また、大学の持っている「知の力」を活用することは、地域のSDGs推進に大変有効です。大学などの教育機関と地域の事業者を結ぶ役割を地域金融機関が果たすことで、地域が一体となって課題解決に向かうことが可能となります。

【プロジェクトを通して完成したスマートミールメニュー】

【はなももキッチン様】

【おかずやmaspi様】

【Rotisserie Un Deux様】

【Cafe Yamazaki様】

【黒猫ナポリ様】

【募集チラシ】

牧之原市　フレイル予防講座＆体操教室

DCCグループ　カイロプラクティッククアトロ×牧之原市健康推進課

1.取組概要

アメリカでは医療にあたるカイロプラクティック概念を通じて、『真の健康』を広めていく活動をしています。
具体的には、骨盤や背骨の歪みを整え、神経伝達の改善を図ります。また良い姿勢維持の為の、栄養・運動・睡眠の生活習慣改善の具体的方法をレクチャーし、体質の改善を図っていきます。
上記の概念を広く知っていただく為、広報活動として健康講座・体操教室などを企画開催したり、学校や地区社協など公的機関はもちろん、企業の福利厚生等からのご依頼をお受けして、開催もしております。
今回は、牧之原市健康推進課様よりご依頼頂いた『フレイル予防講座』実施について主に取り上げます。

2.該当するSDGs目標

3	上記記載と重なりますが、カイロプラクティック概念を用いて『真の健康』を広める活動をしています。よって具体的数字を挙げることはなかなか難しいですが、コロナ禍が明けて以降、だんだんと健康講座等の依頼が増えております。
5	女性が非常に働きやすいかと思います。お子さんがいるご家庭は、自身の都合で仕事の時間を調整できます。また、LGBTQの方たちも気兼ねなく働くことができます。
17	各公約機関や企業などからのご依頼により、健康講座・体操教室等を企画開催することにより、生徒・保護者・地域住人・社員等へ姿勢の大切さや生活習慣（栄養・運動・睡眠）の改善方法を知っていただきます。個人的には健康に一番大切なのは、人の体についての知識を、みなさん個人個人が得ることだと思います。

3.取組イメージ

8月2日　牧之原市健康推進課様よりご依頼された、『フレイル予防』についての健康講座と体操教室。

4.ポイント

今回は、約４０名参加での企画でした。
約９０％の方は、フレイルの危険性と改善方法をご理解して頂き、喜んで頂けたようです。（健康推進課アンケートより）
このような企画は内容と所要時間にもよりますが、数名から５０名前後まではお受けする事が可能です。

5.取組が開始されたきっかけと展開

今回は、加盟している『しずおか健康長寿財団』さんのHPよりご依頼を受け、先方の要望に沿った対応ができるか、当方がどの様に行うかのコンセンサスを取り、数回打ち合わせした後決定いたしました。
こういった企画自体は、知り合いを通じて依頼を受けることもありますが、まだ活動が知られていないときは、こちらから営業に行くことも多々ありましたし、まだまだ認知度は低いかと思いますので、営業活動は今後も続けて行きたいと思います。
ただ、健康というテーマにかかわらず、何らかの講座を探している団体（特にPTA）はコロナ禍以前は結構あったので、営業に行くと〝ぜひ〟という感じで決まることもままありました。なので小学校での講座も結構行っております。
１１月には牧之原小学校での『姿勢の大切さ講座・体幹トレーニング教室』の開催も決定しております。

6.応募した取組の今後の計画・展開

牧之原市で開催させて頂きましたので、その後も骨盤調整体験会なども、企画実施させて頂きました。来られた方は、ご自身の姿勢の欠点についてご理解いただいた様子でした。
『真の健康』の普及という意味では、今後もご依頼があれば健康講座・体操教室・骨盤調整体験会などの企画開催はどんどん行っていく所存です。
年内の予定
・牧之原小学校（５年生対象）での講座と実演
・藤枝市での『通いの場』３団体よりご依頼あり、今後打ち合わせの後、正式決定。
・地元公民館での健康講座・骨盤調整体験

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

『真の健康』の普及という意味では、日本で法制化されていないカイロプラクティックは立場的に弱いので、"日本の医療"から見たとき健康に対する考え方が違いすぎます。
よって、カイロプラクティックの団体も一本化されてなく、日本では通常小さいカイロ団体が多く、また個々の横のつながりも薄いと聞きますので、この様な健康講座の実現は物理的に難しいと思います。
逆にご依頼をされる側の団体様は、当方にご依頼いただく際、開催までの期間をひと月以上は取って頂き、健康に対するアプローチ方法等のコンセンサスを取りつつ決定して頂ければ、福利厚生にしても団体行事にしても楽しく健康について学んでいけるかと思います。
※年齢性別等は問いませんが、予定参加人数と開催場所の広さにより実施できる内容が異なってくる可能性があります。

人と動物の共生社会の実現を目指す活動

企業組合動物の森×静岡ねこの会×静岡県中小企業団体中央会

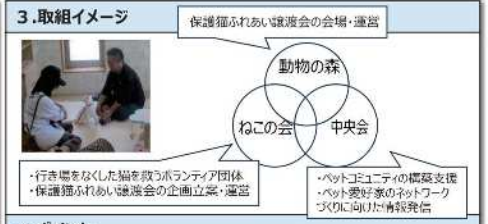
1.取組概要

人間にとって身近な動物でペットとして人気の猫ですが、人間の身勝手な事情により野に放たれた猫及び無秩序なえさやりする人間の存在により、飼い主のいない猫が近年増殖しています。その中で、保護された猫は保健所へ持ち込まれると、ほとんどが殺処分されてしまうのが現状です。当グループは、飼い主のいない猫と人間がふれあい、里親を探す活動を行っています。この取り組みを通じて、動物愛護精神の普及及びモラルの向上がはかられるなど、人と動物の共生社会の実現に大きく貢献しています。

2.該当するSDGs目標

3	動物愛護精神の情操教育を行うとともに、動物との触れ合いによるアニマルセラピー効果でペットロスを癒します。
11	飼い主のいない猫の殺処分を失くすため、地域・行政とのパイプ役となり、人と動物が幸せに住むまちづくりを目指します。
17	共助の精神を持って、協働者それぞれの強みを生かして、地域に根差したペットコミュニティを創出します。

3.取組イメージ



4.ポイント

・愛護精神を持った動物好きな人の参加が多いため里親が見つかりやすい。
・譲渡会で猫を飼うきっかけになり、亡くなった時も動物の森の施設で送り出すこと可能です。
・始まりは終わり、終わりは始まり、縁を紡ぎ、人と動物が共存し、互いに幸福感で満たされる場所と時間を提供することをコンセプトに協働し活動しています。

5.取組が開始されたきっかけと展開

企業組合動物の森は、ペット霊園として動物と市民の調和のとれた共生社会の実現に向けて活動しています。礼拝堂にペットフード回収BOXを設置し、ペットを亡くした家族からの寄付として静岡ねこの会に提供し保護猫たちのエサとして活用されています。
静岡ねこの会は、ふれあい活動、飼い主のモラル向上及び捨て猫や殺処分が減るよう排除ではなく人と動物の共生を目指したボランティア活動を行っています。
静岡県中小企業団体中央会は、企業組合動物の森に対して、ペットコミュニティの構築に向け、継続的な支援行っています。
人と動物の共生社会の実現に向けて、基本理念が合致し、平成26年8月に第1回目、平成31年2月から別館メンバーズラウンジ２階での開催となり、コロナ禍で2年間ほど自粛し、現在月1回ペースで実施、令和5年7月まで、84回の開催実績があります。

6.応募した取組の今後の計画・展開

・イベントのキャパシティ（開催規模）、イベント回数、参加人数の向上のための施策検討（LINE・IT活用等）
・マッチング成約率の向上
・飼育方法の指南
・野良猫の現状や対処方法、豆知識等を配信

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

・江戸時代にも「猫ブーム」があったほど、猫と人間の歴史は長く身近な存在です。
・野良猫問題・地域猫問題は地域が抱える全国共通の課題です。
・犬のボランティアも応用可能です。

竹を使った水上自転車の走行体験会

ふじのくに竹王国企業組合 ×聖隷クリストファー大学 ×入野漁業協同組合×静岡県中小企業団体中央会

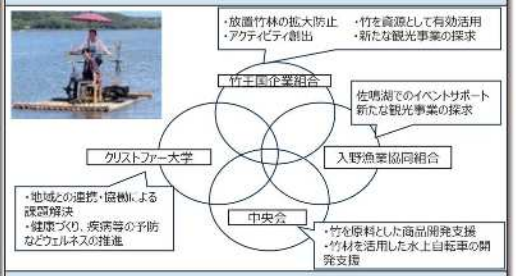
1.取組概要

ふじのくに竹王国企業組合が主体となり、放置竹林から伐採した竹を使用した水上自転車の走行体験会を佐鳴湖において実施しています。竹筏（てっぱい）水上自転車は、ペダルをこぐことにより下部に付けたブレードが水をかき前進、逆回転させると後進し、ハンドルで進行方向を調整します。この一連の動作・運動は、健康づくりにつながる可能性があることから、聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部理学療法学科の学生も体験会に参加しています。
なお、竹筏は活用後、破砕機でチップ・粉末にして飼料、肥料、土壌改良剤として利用され、循環型社会の構築に貢献しています。

2.該当するSDGs目標

- 3：健康づくり、疾病等の予防に関する知見の提供により、すべての人が安全に、安心して、健康に生活できる社会の創造を担います。
- 11：伐採した竹を資源として有効活用することにより、放置竹林の拡大防止をはかり、土砂災害を引き起こす危険性を軽減します。
- 17：共助の精神を持って、社会課題の解決を行う関連機関と積極的にパートナーシップを構築します。

3.取組イメージ



4.ポイント

竹筏水上自転車は、浜名湖・佐鳴湖におけるアクティビティの創出、新たな観光事業としての活用と医療への活用を視野に入れ改良することで、理学療法の分野、観光資源化が期待されています。

5.取組が開始されたきっかけと展開

・ふじのくに竹王国企業組合は、放置竹林の整備、竹の利活用の推進をはかることを目的に令和元年2月に設立しました。竹材を活用した水上自転車の開発には中央会も継続的に支援しています。
・令和３年7月浜名湖において、浜松市長、湖西市長を招き、竹筏水上自転車の試乗会を実施しました。

浜松市長
湖西市長による試乗

・今回は、入野漁業協同組合の協力のもと佐鳴湖において、新たな連携先である聖隷クリストファー大学・学生が参加しました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

・竹を資源とし、環境に配慮した事業展開を国内外に向けて発信します。
・竹林の竹を単に処分するのではなく、エネルギー化や再資源化、廃プラスチックの製品化のほか、アートや観光素材として地域の魅力づくりに活用するなど多種多様な活用をはかります。
・一連の活動、その活用のプロセスを通じ、農産物や海産物の質の向上や企業のビジネスチャンスの拡大をはかります。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

・浜名湖、佐鳴湖において、竹を使った水上自転車の走行体験会は、一般の参加者も試乗可能です。そのため、当イベントに関心のある方は、参加しやすくなっています。
・既に浜松医科大学関係者にも浜名湖艇庫場に於けるイベントに参加していただき、今後の活用も検討中です。
・静岡大学工学部も自転車の装置部の改良、医療に活用するための身体的条件など視野に入れ検討中です。
・三ヶ日青年の家で、ふじのくに竹王国企業組合・組合員が常葉大学サッカー部と浜松市立笠井中学校サッカー部の子供たちへの指導を担当して、竹筏作り体験、冬の竹切には放置竹林の整備体験を合同で毎年開催しています。

SUPPORT FOR SMILE エスパルス福祉基金

（株）エスパルス × メディアスホールディングス（株）× 協和医科器械（株）× （株）アルバース

1.取組概要

地域の福祉・医療への貢献を主旨に、清水エスパルスのホームゲームにおけるゴール数と入場者数、無失点試合数に応じて金額を積み上げる基金で、シーズン終了後に静岡市を中心とした福祉団体・医療機関等に寄付しています。ファン・サポーターの皆様のご声援をゴールや入場者数につなげ、試合における夢や感動で福祉環境の充実を図る企画で、サポーター・企業・クラブの三者が一体となってこの活動を盛り上げています。
Jリーグクラブ初の取り組みで、2009年より15年にわたり継続して実施しています。

2.該当するSDGs目標

- 3：2009年より活動を開始し、2022年までに合計40,792,857円を寄附してきました。主な贈呈先として、静岡市里親会、母子生活支援施設、静岡県立こども病院等があります。
- 16：本活動の一環として東日本大震災の被災地である岩手県盛岡市と大槌町をスタッフが訪問しサッカーで交流をしたり、児童養護施設や病院を選手が訪問、福祉車両の寄贈等を行ってきました。
- 17：本活動は2009年に協和医科器械（株）とエスパルスにて始まりました。その後2社が加わり、2023年は3社にて活動を進めています。ファン・サポーターが参加できる企画で、地域のパートナーシップで活動を展開しています。

3.取組イメージ

清水エスパルスホームゲームにおいて
①エスパルス1ゴールごとに5万円　②入場者1名につき5円
③無失点試合1試合につき6万円　を積立

シーズン終了後に福祉団体・医療機関等へ寄付。
寄付金は個人・パートナー企業3社様よりご協賛いただいております。

4.ポイント

クラブ公式サイトに現在の合計金額を掲載し、毎試合更新しています。基金の見える化でファン・サポーターに応援を促すとともにSDGs意識向上を図っています。

5.取組が開始されたきっかけと展開

クラブと企業の単純な協賛関係ではなく、地域や福祉への還元を考えた時に『エスパルスが活気づくと地域が活気づく』といった認識があったため、福祉・企業・ファンサポーターが一体となって取り組める仕組みを考えたことが始まりです。

2011年に起きた東日本大震災にも「東日本大震災エスパルス復興支援基金」として充当しました。ただ、分配する基金が少なくなるため、メディアスグループのご理解もあり、カウント2倍デーを設けることで地域福祉への還元も滞りなく実施できています。

また、静岡県手をつなぐ育成会をはじめ、県内福祉団体を対象に毎試合、福祉基金招待「親子ふれあいシート(8組16名)」を実施しています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

エスパルスとしては「わかちあう夢と感動と誇り」を基本理念に、毎試合満員の試合会場を作り上げる事を目標にしています。勝利を目指し、たくさんのファン・サポーターの皆様にご来場いただき、地域福祉への還元率を高めてより多くの施設への寄附、関連イベントの充実を図っていきたいと考えています。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

●チームの勝利、選手の活躍へとつながるパートナーシップ
ホームゲームで勝利するというサッカーの醍醐味を選手とサポーターが共有できることが重要であると考え、チームの活躍をホームタウンの発展や社会貢献に還元できる仕組み、それをスポンサードいただく活動としました。

●ファン・サポーターが参加できる仕掛けづくり
チームのゴール数とともに入場者数を基金に取り入れた目的は、当活動にサポーターの皆さまも参加していただきたいからです。入場者数が福祉基金に直接反映されるため、サポーターの皆さまはエスパルスの応援のためにスタジアムへ足を運ぶことによって地域の福祉、SDGsに貢献することができます。来場された皆さまが選手へ声援を送りエスパルスのゴールを後押しすることも、さらなる貢献につながります。
また、基金カウント2倍デーなども実施し、楽しみながら参加できる仕組みづくりに努めています。

▷クラブ創設以来、エスパルスはホームタウンをもっと盛り上げ、サッカーを通じて笑顔を広げていく様々な活動に地元企業や地域の皆さまと一緒に取り組んでいます。
人を巻き込む力や発信力を強みとし、またSDGsにも積極的に取り組むプロスポーツクラブだからこそできる活動を展開しています。

資産を生かして地域振興プロジェクト

株式会社Bonds×静岡県立科学技術高等学校×静岡市葵区瀬名地域飲食店

1.取組概要

地元の静岡県立科学技術高等学校と協力して行っている“かっとば瀬名！！”プロジェクトです。
地元飲食店が新型コロナで経営が厳しくなっていたことをきっかけに、生徒が静岡市葵区瀬名・瀬名川地区の地域活性化のため、店長や地域の声を大きく取り上げ応援するホームページを制作・公開しました。

2.該当するSDGs目標

4	ITを通じた学びから知的・感情的・社会的な発達を促進しています。コミニュケーション能力の発達など、チーム内の組織に向けたマネージメント能力の向上が掲げられます。
9	プログラミングを通じて未来の産業や技術について学ぶ機会を提供することで、産業と技術革新の基盤を作ることに寄与しています。生徒の問題解決能力や発想力やコミュニケーション能力の向上に繋がります。
11	地域の生徒達に対して、まちづくりに対しての理解を深めるための活動として実施しています。地域に関心を持ち、住み続けるための意識を高める機会を提供しています。持続可能なまちづくりの重要性と、生徒達が住み続けられるまちづくりに自ら参加することの大切さを啓発しています。

3.取組イメージ

4.ポイント

探求学習の場として中間支援組織が地域と学校を繋げる事例は従来もありましたが、このプロジェクトの最大の特徴は、弊社の資産であるIT技術・知識・機材等を提示し、学校側がこれを活かして、地域も積極的に協力し、地域活性化に取り組んでいることです。
「地元生徒たちの応援が嬉しい、ぜひ取材を！」と瀬名・瀬名川地区の飲食店の皆さんは快く協力してくださいました。そして、コロナ禍で経営が厳しくなっていた地元飲食店に応援の息吹が吹き込まれました。

5.取組が開始されたきっかけと展開

静岡県立科学技術高等学校は、IT関連を得意とする多くの生徒が在籍しています。
学校はホームページ制作といった技術的側面の実践学習、および、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協同を進めていく探求学習に力を入れています。

一方弊社では、自社の得意とするIT関連の資産（技術・知識・設備等）を活かし、静岡のさらなる地域活性化に貢献できないか、また生徒のスキルアップを支援することは出来ないか、と考えていました。
このプロジェクトは、弊社が高校にIT講習を持ち掛けたことをきっかけに、生徒が学習・機材等の支援を受けて、自分たちの力で地域活性化について話し合うことからスタートしました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

SDGsを意識して取り組むことで、社会貢献・地域振興に繋がる糸口を見つけて、やりがいや活動への指揮が高まりました。何のために活動しているのか、その活動はどんな効果をもたらすのか、グローバルな視点からポジティブなマインドを描くことが出来たと思います。自社の資産（技術・知識・機材等）を提示して積極的に取り組むことで、学校や地域にも協力やご支援を受けやすい体制を心がけていきます。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

1. 教育のサポートの重要性：株式会社Bondsのかっとば瀬名プロジェクトは、学校や教育機関と協力して、生徒にITの知識を伝えることを目的としています。SDGsの観点では、教育のサポートが非常に重要であり、社会全体の発展に関わっています。

2. 地域社会との協力：株式会社Bondsは、静岡市に本社を置く企業です。同社が静岡県立科学技術高校と協力し、地域社会に貢献することで、地域社会の発展に寄与しています。

3. イノベーションの推進：かっとば瀬名プロジェクトは、ITの知識を伝えるだけでなく、生徒にイノベーションを導くことも目的としています。イノベーションは、SDGsの目標である持続可能な発展に必要不可欠な要素であるため、他の企業も同様のプロジェクトを実施することが重要です。

4. 社会的責任の履行：株式会社Bondsのかっとば瀬名プロジェクトは、社会的責任の履行として位置づけられます。企業は、SDGsの実現に責任を持って取り組む必要があります。他の企業も、社会的責任を果たすことに取り組むことが大切です。

5. エコロジーの重要性：かっとば瀬名プロジェクトは、紙の使用を抑えるなど、エコロジーに配慮した取り組みも行っています。SDGsの目標の一つである「地球上の誰も取り残さない」という観点からも、エコロジーに配慮した取り組みが必要であることが示唆されます。

女性事業者の活躍を応援！！～WOMAN WILL POWER～

しずおか焼津信用金庫 × 静岡市 ／しずおか焼津信用金庫× 焼津市 ・ 藤枝市

1.取組概要

女性事業者同士（経営者、後継者、起業検討者など）が、会社運営・新規開拓・事業承継・家庭両立などの様々なトークテーマで会話をし、交流を深め、女性ならではの悩みを互いに共有しながら学び合える交流会を開催しています。（令和5年度　静岡会場…共催 静岡市、焼津・藤枝会場…共催 焼津市・藤枝市）
金融機関と自治体が連携して交流会を開催することで、地域内の女性事業者に対して幅広く案内を行い、より多くの女性が活躍する社会の推進を目指すとともに、SDGｓの推進を積極的に行っていきます。

2.該当するSDGs目標

4	交流会の前半では、静岡・焼津・藤枝にゆかりのある女性事業者をゲストスピーカーとしてお呼びして、事業経営における経験談や体験談を話してもらい、参加者たちの「学び」の機会を作っています。
5	「ジェンダー平等」の観点から、女性事業者の活躍を積極的に推進します。多くの女性たちが自分らしく活躍できる社会の実現に貢献します。
8	ライフステージの変化に伴う働き方の選択や女性事業者としての不安など、女性ならではの悩みについて互いに情報交換を行える機会を提供することで、女性事業者の活躍を応援しています。

3.取組イメージ

※写真は令和4年度開催時の様子。

4.ポイント

女性事業者たちが集まり、今抱えている悩みや、将来的な不安などを、同じように事業経営に携わる女性たちとオープンで自由な会話を通して共有することで、新たな横の繋がりはもちろん、悩みの解決ヒントや新たな発想を見つける機会を創出し、地域の事業活性化に繋げていく。

5.取組が開始されたきっかけと展開

内閣府が掲げる女性活躍推進に向け、社会環境の整備や各種取組が自治体の活動を中心に活発となっている中、金融機関としての立場から女性が活躍する社会の実現に貢献するため、女性経営者、後継者、家族経営者、企業検討者等を対象とした、女性事業者が集まり情報交換を行うことができる機会を創出することが必要であると考え、当事業が始まりました。
当初はしずおか焼津信用金庫の取引先を対象に、会場も金庫施設で開催していましたが、地域金融機関として地域全体を盛り上げていくためには、各自治体とも連携した幅広い活動として広めていくことが必要であると考え、近年は対象を取引先限定せず、会場も市の施設やオープンスペースを使用するなど、少しずつ形を変えながらより多くの女性事業者に参加してもらえる事業として、自治体と連携して開催しています。

6.応募した取組の今後の計画・展開

令和５年度も各自治体と連携して女性事業者交流会を実施します。今年度はゲストスピーカーによる経営面や事業展開の道のりでの深い経験・体験談をお話していただきます。
また、今年度についてはさらに地域事業者を応援する取り組みにも着手したいと考えています。女性事業者だけでなく地域で活躍する女性たちを応援すべく引き続き様々な支援を行っていきたいと思います。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

今回の取組は、しずおか焼津信用金庫が地方創生包括連携協定を結ぶ各自治体と共に取り組んでいる連携事業の事例です。
金融機関・自治体共に、「女性活躍の推進」「地域経済の活性化」について取り組む必要性が重視されていることを背景に実施されていますが、このそれぞれが抱える共通課題の設定は多種多様にあるため、より多くの連携ができると考えています。
この事業において、企業は参加者としての立場ですが、課題設定や規模感を調整していくことで、様々な可能性を見いだすことが出来る、汎用性の高い事業であると考えています。

地域経済の活性化を図り、官金の連携を深め、推進力を強化し、女性活躍推進に対する共通認識を持って、幅広く支援を行うことは、第４次静岡市男女共同参画行動計画の基本目標７「男女共同参画の視点にたったワーク・ライフ・バランスの実現」、基本目標８「労働の場における男女共同参画の実現」の達成に繋がっています。より多くの事業者の方にも参加していただきたい事業です。

地域の未来によりそう しずおか焼津信用金庫　静岡市　やいづし 焼津市 YAIZU CITY　藤枝市 Fujieda City